

平成30年1月24日

新宿区長 宛て

法人名 特定非営利活動法人新宿区レクリエーション協会

所在地 東京都新宿区西早稲田 1-23-14 福本方

(フリガナ) カイヨウ コスガ トモヅウ

代表者氏名 会長 小菅 知三

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	新宿レクリエーション・フォーラム2017
実施日時又は期間	平成29年11月26日(日)午前10時～午後3時
対象者の範囲及び人数	障がいのある方との文化・スポーツの交流を目指す実践活動関係者 スポーツ行政、体育協会関係者、レクリエーション関係者、高齢者ク ラブの関係者、障がい者支援関係者、介護士、この事業に興味関心の ある方など 38名
事業内容	<p>人と人との交流の大切さを享受する関係者が、一堂に会し、レクリエーション活動種目の開発や指導者・リーダーの養成と活用について、実技交流や情報交換を試み、障がいのある方との交流を目指して市民の健康で明るい豊かな生活の形成に寄与すると共に、運動・活動の普及振興を図った。</p> <p>午前の部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調提言「障がいのある方とのスポーツ交流機会の創出」 ・シンポジウム「障がい者とのスポーツ交流の現状と課題」 <p>実践活動の事例内容、方法、形態、及び参加者の反応、発展と継承などについて協議等を展開した。</p> <p>午後の部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験交流「活動種目の開発と試行、その普及」 <p>①レク・ボッチャ ②ユニカール ③ダーツなどの体験交流</p> <p>実際に3種目を体験できるように講師・指導員を配置し、ルールや基本動作・簡単ゲームを体験した。</p>
具体的な活動状況	<p>11月26日(日) 9時～15時</p> <p>08:45 スタッフ集合 会場設営</p> <p>09:30 受付開始</p> <p>10:00 開会行事 挨拶オリエンテーション</p> <p>10:20 講和・講演・事例紹介</p> <p>13:00 体験「活動種目の開発と試行、その普及」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ、ユニカール、ダーツ 別紙参照

	<p>14:30 実践活動事例 「団体相互の交流と連携」 参加者数 38人、コーディネーター 1名、実践事例発表者 5名 ＊上記開催にあたり、事業の主旨説明・チラシ配布を社会福祉協議会 青少年育成委員会・スポーツ推進委員協議会会義、高齢者クラブ連 絡協議会などに伺い時間をもらい周知活動を4日実施。登壇者事前打 合せ 1回開催・1回から2回目の打合せ 1回開催。 また、当初予定にはなかったが、準備段階で競技ルール等をまとめた テキストが円滑なフォーラムの実施に不可欠であることが分かり、作 成のうえ当日参加者に配布した。</p>
事業の成果	<p>地域振興部生涯学習スポーツ課長から下記のまとめをいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても素敵なフォーラムだった。 ・事例発表で区内障がいのある人たちと実際に事業を展開している団体の話や障がいのある方の生の声で家族の支え、相互に支え合う展開を知った。 ・こうした価値観を共有していくことが大事である。という評価があった。 <p>障害者ダーツクラブ代表の方から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常者と同じルールでやりたい ・社会参画していることを味わいたい ・家族が脊中を押すことが外に出る力を見つけることになり、民生委員の方の声かけも外に出る力にもなる。 ・ゲーサービスに行き機能の維持をしている。 ・体験する場を作ることが外にできるきっかけになる。 <p>などの発言があった。</p> <p>障がいのあるなしのへだたりを超えることは互いのコミュニケーションを大事にすることで共生する社会を実現することに繋がるのがシンポジウムと基調講演を通し共有できたことは大きな成果であった。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 支払金額を確認できる領収書等（写し可）を添付してください。

	経費	積算根拠（内訳）	金額
収 入	団体負担金		77,616円
	参加費、資料代等	参加費@1,000×30名=30,000円 (8名は招待者のため参加費を徴収せず)	30,000円
	その他の収入	寄付金@2,000×1名=2,000円	2,000円
	協働推進基金助成金	助成金交付額	212,000円
	計		321,616円

支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳
	会議費	23,620 円	コスミックセンター小体育室(午前・午後使用)2区分 12,700 円 小会議室(午前・午後使用)3区分 2,000 円 会議用資料コピー代 1,120+7,800=8,920 円
	宣伝費	94,608 円	チラシ印刷カラー A4 版 @40×1000 枚×1.08=43,200 円 ポスター印刷カラー A4 版@100×100 枚×1.08=10,800 円 当日配布テキスト表紙作成費用 20,000×1.08=21,600 円 当日テキスト @220×80 部×1.08=19,008 円
	リース費	2,300 円	附帯設備借上料 2,300 円 小体育室の追加マイクの借上げ料
	消耗品費	8,265 円	文具・養生テープ 2,969 円 ラインテープ @500×7=3,500 円 梱包資材・紙袋 1,796 円
	謝礼	94,000 円	基調講演・施設活動発表謝礼@20,000×1名=20,000 円 ニュー・スポーツ指導員謝礼 @5,000×1名=5,000 円 実践活動発表者謝礼 @5,000×2名=10,000 円 指導・ボランティア謝礼@3,000×11名=33,000 円 看護師謝礼@10,000×1名=10,000 円 総合司会者@10,000×1名=10,000 円 事前打合せ謝礼 @2,000×3名=6,000 円
	人件費	62,423 円	@3,000×16日=48,000 円 公報・周知、事前・当日運営・事後処理に5名が延べ16日 @2,000×5名=10,000 円(事前打合せ) コーディネーター・実践活動発表者 @5,000 円×2名=10,000 円(うち、上限額 @4,000 円×2名=8,000 円を計上) 上記合計額(66,000 円)のうち、助成対象事業費の20%(62,423 円)を計上
	材料費	円	
	交通費	円	
	その他諸経費	26,900 円	損害保険料 @30×60人=1,800 円 郵券 @100×100枚=10,000 円 規格外郵便物 @62×20枚=1,240 円 通常ハガキ レターパック @360×10枚=3,600 円 名入れ封筒 角2 @45×100枚×1.08=4,860 円 長3 @25×200枚×1.08=5,400 円
助成対象事業費(小計)	312,116 円		
余剰金	3,923 円	助成金交付額 212,000 円-(助成対象事業費(小計)312,116 円×2/3)=3,923 円	

助成対象外事業費	5,577円	人件費 2,000+3,577=5,577円(助成対象外分)
事業総額		321,616円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	障がいのあるないのへだたりを越え誰でもが楽しいを享受する活動をどう展開するかヒントを知ることができた。ほぼ80%は達成と考える。参加者が定員に満たなかったこととシンポジウムの実践活動者が5名。発表する時間制限を設定せざるを得なく思いを伝えるには時間不足だった。この分を20%減。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	健全者・障がい者という垣根をなくすため、障がいのある方の話を聞いたのは参考となった。家族のちょっとした理解と後押しや健全者と一緒に楽しみたい。ハンディなど考えてくれなくてもいい。などを拝聴した。今後当協会も大いに障がいについて理解し、区民と一緒に活動できる環境づくりに役立てるものとなった。
費用対効果は適正であったか。	適正であったと考える。障がい者スポーツについて適切なアドバイスができる講師を助成金をいただいたことで招聘出来た。障がいのある方が参加できる会場も借用でき有意義なフォーラムを開催できた。少しの工夫で障がいのある方と一緒に活動できることの理解につながった。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	1) 今後この事業を展開していくことは事務局の組織を拡大しないと活動が充実していかない。 2) 障がいには程度がある。家族の支えや障がいのある人の提案を受けとめるコミュニケーションの大事さ。
理解者や支援者が広がったか。	社会福祉協議会・レガス職員・スポーツ課職員も参加され、シンポジウムでは質疑発言をされ共有することが出来た。 体験交流担当にスポーツ推進委員に手伝ってもらったことで理解者や支援者は広がった。
事務局の執行体制は十分だったか。	フォーラム事業に専念できるように人を頼み、作業分担が出来、手伝ってもらったことが出来たので事務局は専念することが出来た。

<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取組がなされていたか。</p>	<p>計画では正会員・賛助会員の増加につながることにより財源の確保をあげたが、当日の参加者が少なく今後の課題となった。しかし、この2年の成果をもとに財団等行政機関に協働を働きかける実績を築くことはできた。</p>
<p>その他</p>	

4 活動の成果

*事業の成果物(冊子等)、事業の開催時の写真等提出できるものがある場合は、添付してください。
*参加者の意見等も報告してください。